

## Q 研究分野もしくは、担当科目の魅力

僕の研究分野は「会計学」です。皆さんの中には「会計学」という学問があることを初めて聞く人もいるかもしれませんね(特に普通科の高校を卒業した人達は)。実を言うと僕も大学に入学するまで、「会計学」という学問があることを知りませんでした。

大学に入学し、まずは簿記論・会計学を学び、最初はまったく理解できなかったことを昨日のこのように覚えています。まさにゼロからの出発でした。でもいま僕は、この大学で会計分野の科目を教えています。ここに至るまで、僕は会計学を学ぶことについて多くの魅力に出会ってきたのだと思います。

僕の思う会計学の魅力の1つとして、会計学は「実践の学問」であることがあげられるかと思えます。会社の経営者の方たちは、自分の会社の現状やこれから先の方向性について少なからず漠然とした不安を抱えています。会計学はその人達に「いまあなたの会社はこういう状況で、これから先こういう状況になるだろう」ということを、数字を使って示してあげることができます。そして「この費用の無駄を省き、こういう計画(予算計画)で収益をあげていきましょう」という道しるべを示してあげることができます。ここに会計学の持つ「実践の学問」としての魅力を感じることができました。皆さんも大学を卒業した後、社会の第一線で活躍していくことと思います。その時に「会計学」の「実践性」を発揮してもらえれば嬉しく思います。



■企業と会計

山崎 敦俊  
(やまざき あつとし)

1973年生まれ。群馬県出身。法政大学経営学部経営学科卒業、作新学院大学大学院経営学研究科博士(前期)課程修了、作新学院大学大学院経営学研究科博士(後期)課程単位取得後退学、現在に至る。

## Q その分野もしくは、科目を志したきっかけ

僕が「会計学」を志したきっかけは、ある1人の師匠(先生)との出会いからでした。

会計学の面白さや学ぶことの大切さを言葉だけではなく、背中では示してくれるような先生でした。僕がその先生からとても感銘を受けたことは、「日々、謙虚に努力し続け、研究心を持ち続ける姿勢」を持続されていることでした。僕はその時、「こんなにすごい先生が勉強しているのだから、僕も謙虚に会計学の勉強をし続けなければならない」と思うようになりました。

みなさんもこの大学にいるたくさんの素晴らしい先生方の下で勉強し、師匠を作ってみたらいかがでしょうか？